

## #15 一年間「褒めるだけ指導」を続けた結果

こんにちは、  
ジュニアサッカー大学、講師のカズです。

真似して本質を理解したら、次は実践検証です。今日は僕が実際に試した 2 つの事例から、成功と課題の両面について話します。

特に印象的だったのが、1 年間以上「選手を一切否定せず、常に褒める指導」だけに取り組んだ経験。このチャレンジから見えたものは想像以上に大きなものでした。正直、途中で「これ大丈夫かな？」って不安になったことも…笑

====

なぜ実践検証が重要なのか？それは、どんなに素晴らしく見える指導法でも、実際にやってみないとメリット・デメリットが分からないからです。

皆さんも「この指導法、良さそうだな」って思っても、実際に試すまでには至らないこと、ありません？僕もそういうタイプでした。でも、思い切って試してみると、意外な発見があるんですよね。

検証には時間軸が重要です。

- ①短期検証：数回～数週間で子どもたちの反応を見る
- ②中期検証：数ヶ月で技術や意欲の変化を観察
- ③長期検証：半年～1 年で本当の効果と限界を把握

====

僕がキッズ年代の指導が苦手だった頃、スペイン系スクールでめちゃくちゃ指導が上手な日本人コーチがいました。その方の真似をひたすらすることで、最終的にはキッズ指導ができるようになったんです。半年ほど続けた結果、子どもたちとの距離感や声かけのタイミングが劇的に変わりました。

過去には「キッズ年代の子どもの扱い方がわからないレベル」の僕でしたが、そのコーチの真似をひたすら繰り返すことで、全然問題なくできるようになりました。これが本当に現場で学ぶということですね。

====

一方で、昔は結構厳しいコーチ（というより怖い…）だった僕が「褒めるだけ指導」を1年以上続けた時は、より深い学びがありました。子どもたちのやる気やモチベーションについて本質的に考えるようになったんです。

ポジティブな変化として、練習への参加意欲が明らかに上がり、自分から質問してくる子が増えました。「コーチ、これってどうやるの？」って聞いてくる回数が3倍くらいになったんです。

しかし、ネックになった部分もありました。規律が緩くなりすぎて、集中力が散漫になる場面が出てきたんです。特に試合前の集中したい時に「まあ、いいか〜」みたいな雰囲気になっちゃって…これはマズいなと思いました笑

====

この1年の検証で分かったのは、褒めることの効果と限界の両方でした。褒めることで子どもたちは確実に前向きになるけれど、それだけでは成長に必要な「適度な負荷」や「正しい基準」を伝えきれない。

この経験があったからこそ、今は状況に応じて褒めると叱るを使い分けることができるようになりました。要するに、どっちも必要だったんですね。極端にどちらかに振り切るんじゃなくて、バランスが大事だということが身をもって理解できました。

====

今日のアクション

- ・新しい指導法を最低3ヶ月は継続してみる
- ・子どもたちの変化を「良い面」「課題面」の両方で記録する
- ・一つの方法に固執せず、効果と限界を客観的に評価する

====

完璧な指導法は存在しません。だからこそ、実際に試してみて、その方法の「使いどころ」を見極めることが大切です。失敗も成功も、すべてあなたの指導力向上の材料になります。

検証って最初は面倒に感じるかもしれませんが、やってみると意外と面白いんですよ。子どもたちの反応が変わっていくのを見るのは、ちょっとした実験みたいで楽しいです笑

次回は「複数スタイルを統合して自分らしさを作る」についてお話しします。

P.S. 検証には勇気が必要ですが、そこから得られる学びは計り知れません。

それでは、今回も最後まで読んでいただきありがとうございました！

ジュニアサッカー大学 カズ